

## I 研究主題

### 児童生徒の学びの充実を実現する授業づくり

#### ～ 3つの視点に基づいた授業改善～

#### 2年次研究（2年次）

## II 2年次の研究の取組

### 1 2年次の研究の内容

1年次である昨年度から、学部ごとに「授業づくりシート」を活用しながら、「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業づくりに取り組んだ。

#### いわての授業づくり3つの視点

視点1：学習の見通し

視点2：学習課題を解決するための学習活動

視点3：学習の振り返り

1年次には、3つの視点のうち「視点3：学習の振り返り」が課題になった。これを受けて、2年次となる今年度は、「学習の振り返り」を重点的に、児童生徒が自ら振り返り、次の課題意識をもって学びに向かえるようにし、「何ができるようになったか」を明確にする評価に取り組み、学びの充実に向っていくことにした。今年度は、各教科等を合わせた指導で小学部は生活単元学習、中学部、高等部は、作業学習で取り組むこととした。

### 2 2年次の経過

日時		
4月27日（火）	第1回全体研究会	今年度の研究推進の確認
5月11日（火） 6月22日（火）	研究日（学部研究会）	学部研究の推進 授業改善
7月19日（月）	全体授業研究会①	小学部「生活単元学習」 中学部「作業学習」
7月27日（火）	研究日（学部研究会）	全体授業研のまとめ
9月28日（火）	全体授業研究会②	高等部「作業学習」
11月24日（水） 12月21日（火） 2月15日（火）	研究日（学部研究会）	学部研究の推進 まとめに向けて
2月28日（月）	第2回全体研究会	研究のまとめ

### 3 全体授業研究会

学部	授業日	単元名
小学部	7月 1日 (木) 2校時	生活単元学習「七夕会をしよう」
中学部	7月 5日 (月) 3～4校時	作業学習「DORA 販売会に向けて作業製品を作ろう」
高等部	9月 28日 (火) 2～4校時	作業学習 木工班「恵風祭に向けて製品づくりをしよう」 陶芸班「恵風祭に向けた製品作り」 手芸班「恵風祭の販売に向けて」 農耕班「落花生を収穫しよう」

全体授業研究会は、2回実施した。1回目は、小・中学部の授業で計画し、岩手県特別支援教育研究大会宮古地区大会の事前研究会と合わせた形で行い、高等部職員を小・中学部の2グループに分けて、授業を参観して付箋に記入し、小・中学部のそれぞれの研究会に参加し、協議した。2回目は、高等部の授業で計画し、小・中学部職員を4つのグループに分けて、指定された作業班の授業を参観して付箋に記入し、作業班ごとのグループに分かれて、「3つの視点に基づいた授業づくりの生徒の学びの姿」について、付箋をもとに協議し、共通理解を図った。

### Ⅲ 小学部

#### 1 小学部研究2年次の実践

1年次の課題を受け、以下のことに取り組むことにした。

##### (1) 授業づくりに係るシートの活用

###### ア 新しい「授業づくりシート」

- ・「その単元でどんな力を育てるの？シート」の内容を盛り込んだ「授業づくりシート」の作成
- ・各教科等の書き方の違いへの対応
- ・記入量を減らすことによる授業者の負担軽減

###### イ 単元や授業のねらい

- ・児童が「できるようにになりたい」「分かるようにになりたい」と思うことと、授業者がねらうことのすり合わせ

###### ウ 客観的な評価を目指す工夫

- ・単元や授業終了後に、「授業づくりシート」を授業者間で回覧し記入
- ・授業で児童が使用する「学習シート（大成功ブック）」の活用と学習方法の模索

###### エ 取組の検証

- ・「授業づくりシート」等を活用した授業づくりにおける、児童と授業者それぞれの思いや取組を一致させたときの教育的な効果

【授業づくりシート】 生活単元学習 セタ会をしよう】

小学部 授業づくりシート					
学年・学級	小学部1～6年				
教科・領域・単元名	生活単元学習「セタ会をしよう」①				
取組時期・場所	6/30(水)2校時・プレイルーム				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容や係、グループを知り、単元の見通しをもつ。</li> <li>実態に応じた方法でセタ会成功ブックを作成し、取組に対して楽しみながら気持ちをもつ。</li> </ul>				
授業展開 指導の手立て 教材教具	<table border="1"> <tr> <th>授業展開</th> <th>指導の手立て</th> </tr> <tr> <td>                     ※プレイルーム名を <b>授業期間・科目</b> 欄に記載                      ① プロジェクター スクリーン                      1 あいさつ                      ・T1の番号に合わせてあいさつをする。                      2 みてみよう                      ・スクリーンに映し出される映像を見る。                      3 セタ会について                      目標・内容・グループについて確認しよう                      ・T1がスクリーンに示す内容について確認し、自分のブックを作成する。                      空欄埋め：A, B                      順番：C                      なぞり：D                      文字貼り：E, F                      イラスト貼り：G                      イラストめくり：H, L, J, K, 1年                 </td> <td>                     ・全員が注目しているかを確認し、必要に応じて言葉掛けをする。                      ・セタに関連する映像を流す。                      ・「星の神様」が登場し、児童の気持ちを盛り上げる。                      説明書「星の神様(T1)」                      ・児童とやり取りをしながら、スクリーン上のワードに言葉を埋めていく。                      ・「自分でできた！」を実感できるように、ブックの形式を工夫する。                      ・読書したり、明らかに別の方向を見ていたり、余計なことをしたりしている児童にのみ、注目するよう言葉掛けをする。教師の言葉掛けが児童の学習の助けとならないように！                      ・重要なポイントなどは復唱を促し、確認する。                      ・児童の強い得意に対して、その場で特賞したり、全員で共有したりする。                      ・お題が書いてあるパーティションを用いて、明日の学習内容を提示する。                      ・本時の学習について、よかったことや改善が必要であることを確認し、ブックに書いたり、フィードバックしたりする。                      ・全員が注目しているかを確認し、必要に応じて言葉掛けをする。                 </td> </tr> </table>	授業展開	指導の手立て	※プレイルーム名を <b>授業期間・科目</b> 欄に記載 ① プロジェクター スクリーン 1 あいさつ ・T1の番号に合わせてあいさつをする。 2 みてみよう ・スクリーンに映し出される映像を見る。 3 セタ会について 目標・内容・グループについて確認しよう ・T1がスクリーンに示す内容について確認し、自分のブックを作成する。 空欄埋め：A, B 順番：C なぞり：D 文字貼り：E, F イラスト貼り：G イラストめくり：H, L, J, K, 1年	・全員が注目しているかを確認し、必要に応じて言葉掛けをする。 ・セタに関連する映像を流す。 ・「星の神様」が登場し、児童の気持ちを盛り上げる。 説明書「星の神様(T1)」 ・児童とやり取りをしながら、スクリーン上のワードに言葉を埋めていく。 ・「自分でできた！」を実感できるように、ブックの形式を工夫する。 ・読書したり、明らかに別の方向を見ていたり、余計なことをしたりしている児童にのみ、注目するよう言葉掛けをする。教師の言葉掛けが児童の学習の助けとならないように！ ・重要なポイントなどは復唱を促し、確認する。 ・児童の強い得意に対して、その場で特賞したり、全員で共有したりする。 ・お題が書いてあるパーティションを用いて、明日の学習内容を提示する。 ・本時の学習について、よかったことや改善が必要であることを確認し、ブックに書いたり、フィードバックしたりする。 ・全員が注目しているかを確認し、必要に応じて言葉掛けをする。
授業展開	指導の手立て				
※プレイルーム名を <b>授業期間・科目</b> 欄に記載 ① プロジェクター スクリーン 1 あいさつ ・T1の番号に合わせてあいさつをする。 2 みてみよう ・スクリーンに映し出される映像を見る。 3 セタ会について 目標・内容・グループについて確認しよう ・T1がスクリーンに示す内容について確認し、自分のブックを作成する。 空欄埋め：A, B 順番：C なぞり：D 文字貼り：E, F イラスト貼り：G イラストめくり：H, L, J, K, 1年	・全員が注目しているかを確認し、必要に応じて言葉掛けをする。 ・セタに関連する映像を流す。 ・「星の神様」が登場し、児童の気持ちを盛り上げる。 説明書「星の神様(T1)」 ・児童とやり取りをしながら、スクリーン上のワードに言葉を埋めていく。 ・「自分でできた！」を実感できるように、ブックの形式を工夫する。 ・読書したり、明らかに別の方向を見ていたり、余計なことをしたりしている児童にのみ、注目するよう言葉掛けをする。教師の言葉掛けが児童の学習の助けとならないように！ ・重要なポイントなどは復唱を促し、確認する。 ・児童の強い得意に対して、その場で特賞したり、全員で共有したりする。 ・お題が書いてあるパーティションを用いて、明日の学習内容を提示する。 ・本時の学習について、よかったことや改善が必要であることを確認し、ブックに書いたり、フィードバックしたりする。 ・全員が注目しているかを確認し、必要に応じて言葉掛けをする。				
配置図	5-1・2教室配置図 				
取組の様子	こんな姿がありました！こが良かった！ もっともっとと長くするために！				

単元・題材名は児童が分かるものにした。

①学習指導要領に基づいているか  
 ②個別の指導計画の内容を盛り込んでいるか  
 ③児童の「できるようにになりたい」「分かるようになりたい」と思うことと、授業者がねらうことのすり合わせができていて、意識して、ねらいを設定した。

授業展開や手立てのみならず、指導のポイントを記載し、ねらいを意識した指導につながるようにした。

場の設定や授業者配置などは、授業内容により必要な場合のみ記載した。

単元の終了や学習内容変更のタイミングで、回覧形式で記載した。記載の内容を児童の評価としたり、次の授業づくりにつなげたりした。

【大成功ブック】 生活単元学習 節分会をしよう (こっこつグループ)】

こっこつグループ セつぶんかいのじゅんぴをしよう	
	えほうまき
	かざり
	もじ
	しだい

グループごとに学習方法を工夫した。こっこつグループでは、単元の最後にまとめの時間を設け、単元全体の学びを振り返って「大成功ブック」に記録した。活動の様子を記録した写真を貼ったり、文字で表したりすることで学習をまとめ、それを発表することで、自信や次の意欲につなげることができた。授業者は、「楽しかった」「頑張った」という感想の表現に留まらないように配慮し、「何を学んだか」「何ができるようになったか」を記載することを意識した。

単元毎の記録を積み重ね、「大成功ブック」に綴っていくことで、目標や学習内容、どのように取り組んだかを整理することができた。次の単元の目標や学習内容を設定したり、手立てを考えたりする際に役立ち、丁寧な授業づくりにつながった。例) 各教科等でできるようになったことや取り組んでいることを生かした題材を設定すること

課題量を適切に設定すること

それにより児童は、いろいろな学びを結び付けたり、「分かってできる」喜びを感じたりしながら主体的に学習に取り組むことができた。

(2) 新学習指導要領に基づいた授業展開 ～指導目標や内容の吟味～

ア 年間指導計画立案の考え方

身に付けてほしい力を見通した教科横断的な計画【表1 根拠のある学びシート】を作成し、児童の学習定着を目指した単元の設定期間を考えることにした。

イ 「授業づくりシート」を活用した授業展開の考え方

教科等のつながりを大切にした指導計画の作成のため、児童は何を学ぶのか、何を身に付けるのかを明確にし、「授業づくりシート」を活用した授業を考えることにした。

ウ よい授業＝よく分かる授業 ～学部での共通認識を目指して～

指導と評価の一体化を意識し、3つの視点を踏まえながら、児童の変容や、指導の中で効果があった点や改善が必要な点などを整理して、よい授業＝よく分かる授業をつくることの共通認識を目指すことにした。

2 全体研究会での取組

(1) 提案授業について

授業提案にあたり、新学習指導要領及び3つの視点を意識した。また、令和3年度岩手県特別支援教育研究大会宮古地区大会での提案授業のプレ授業を兼ねたことから、大会までの間、岩手県立総合教育センター 阿部真弓 指導主事（上記大会第6分科会助言者）からいただいた助言を活用し、授業づくりを進めた。

教科等	生活単元学習
単元名	七夕会をしよう
児童	こっこつグループ 3名（4年生1名 5年生1名 6年生1名） ・支援を求めながらも、これまで身に付けてきた技能を、できる限り自分の力で生活に生かしていくことを生活単元学習の目標としているグループ 注：学部全体で取り組む生活単元学習では、個々の児童が目指すねらいを達成できるように、一年間グループを固定して取り組んでいる。
協議の柱	学びの充実を実現する授業づくり ～いわての授業づくり3つの視点に基づいた授業改善～
授業者の3つの視点	視点1 具体物を提示すること、同じ流れで活動することに留意した。 視点2 実態に応じたインタビュー活動による課題解決を頑張してほしい。 友達や授業者と一緒に活動したことによる満足感を得てほしい。 視点3 「大成功ブック」を使ってまとめ、発表することで、グループ内や他のグループと学びを共有することにした。 まとめテストを実施することで、学びを確認することにした。 ファイリングによって学びの積み重ねを実感できるようにした。
3つの視点からみた児童の願い	視点1 活動内容を理解して、時間いっぱい取り組みたい。 視点2 これまで学習してきたことを活用して、インタビューをしたい。 集中できる活動に落ち着いて取り組みたい。 視点3 自分の役割に一生懸命取り組むことで、七夕会を成功させたい。

(2) 協議に出された児童の姿に係る意見（抜粋） ○参観者意見 ●授業者意見

<p>視点 1</p>	<p>○タブレット型端末のアプリを活用して教師を呼びに行く活動について、端末から発せられる音声だけでなく自分の発声もあった。児童は活動内容を理解し、主体的であった。</p> <p>○調べたことやまとめたことを全グループで共有することで、児童にフィードバックしやすく、振り返りとして分かりやすかった。</p> <p>●ゴール（この時間で何に取り組むか、どの程度取り組むか、何を学ぶか）が明確になるような指導が必要である。</p> <p>●七夕飾りの名称をまとめるカードの活用の仕方（出し方、タイミング）や授業者の話し方、惹き付け方を工夫したい。</p>
<p>視点 2</p>	<p>○学習課題を解決するための学習活動として、縦割りグループでの学習は効果的であるように思えた。どの課題も実態に応じて無理なく取り組むことができた。</p> <p>○七夕飾りの提示について、絵、文字、口語、ハンドサインなど複数の手段での提示が工夫されていて、学びが深まっていた。</p> <p>○七夕飾りの名称をインタビューで聞いたり、自分たちで七夕について調べたりする活動は、児童自身がつくりあげていく七夕会になると感じた。</p>
<p>視点 3</p>	<p>○生活単元学習で学んだ事柄をまとめてファイリングする「大成功ブック」を、児童はいつでも見ることができる状態で、それを基に友達と会話するなど、主体的・対話的で深い学びにつながっている。また、「大成功ブック」がそのための教材になっている。</p> <p>○全体でのまとめ場面でのタブレット型端末を利用した児童主体の発表場面で、本時の活動に見通しをもって取り組んでいたことが分かった。とてもスムーズで主体性があった。</p> <p>●この時間で学んだことを実感できるような振り返りが必要である。</p>

全体研究会を通して、令和3年度岩手県特別支援教育研究大会宮古地区大会に向けて、目標や手立てなどの整理ができた。また、他学部との協議により、3つの視点について、小学部の取組の成果や課題を実感として押さえることができた。さらに、評価についても考える機会となった。

### 3 成果と課題

1年次に課題として残った3項目について、2年次の達成状況を振り返る。

#### (1) 授業づくりに係るシートの活用

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のまとめりでの評価ができた。</li> <li>・複数の授業者が記入することで評価の客観性が高まった。</li> <li>・児童の学習シートは、教科や実態に応じて活用することを確認できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回覧のタイミングは、単元終了後に限らなくてよい。授業者間で目標や内容を見直したり、手立てを工夫したりするサイクルを回すことが大切である。</li> <li>・指導と評価の一体化を意識したい。</li> </ul>

(2) 新学習指導要領に基づいた授業展開 ～指導目標や内容の吟味～

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科横断的な授業づくりの視点をもつことができた。</li> <li>・学習時期と各教科等のねらいなどの関連を整理し、表にまとめることができた。</li> <li>・小学部の教育活動の中心に「特別の教科道徳」の目標や内容が位置付けられ、各教科等の内容と行事をつないでいることが確認できた。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業の在り方を考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめたものを日常的に意識しておらず、十分に活用することができなかった。</li> <li>・授業者の考え方をブラッシュアップしていく必要がある。</li> <li>・教育課程の見直しなど、カリキュラム・マネジメントの考え方を視野に入れた取組が必要である。</li> </ul>

(3) よい授業＝よく分かる授業 ～学部での共通認識を目指して～

生活単元学習を中心とした授業づくりの過程で、他教科や合わせた指導の授業づくりについても考えることができ、日々の指導の見直しや改善を図ることができた。学部研究会で話題になった成果と課題について、例を挙げる。

成果：児童の変容

<p>視点 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおよその授業の流れを固定したことで、分かってできることが増えた。</li> <li>・流れがルーティン化されていたことで見通しがあり、不安を感じることなく学習に取り組むことができた。</li> <li>・学習の流れを分かりやすく提示したり、場の設定を工夫したりすることで、児童が自分で考えて動くことができた。</li> <li>・期間を長く設けることで、じっくりと学習に取り組むことができた。</li> </ul>
<p>視点 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を吟味することで主体的な取組ができた。学びの楽しさや喜びにつながった。</li> <li>・適切な活動量を段階的に設定することで、集中力や持続力、体力がついた。</li> <li>・題材によって、習熟度別や実態の平均化などのグループ編制を工夫したことで、実態に応じた学びができた。主体的な学びにつながった。</li> <li>・目標達成カードを活用することで、できたことが可視化でき、学びの意欲につながった。</li> </ul>
<p>視点 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元によっては、学習の過程や成果の共有場面を設定することで、取組のモチベーションが上がっていた。</li> <li>・動画による即時の振り返りと評価により、友達や授業者に褒められる経験をすることで、次の学びの意欲につながっていた。</li> <li>・達成感や充実感を、表情や態度で表していた。</li> <li>・前の授業での取組が次の授業に生かされていて、学びにつながっていた。</li> <li>・学習シートを活用することで、できたことが分かりやすかった。</li> <li>・動画による振り返りは、自分を客観視したり、友達のよい点にも気付いたりすることができた。</li> </ul>

課題：指導の中で効果があった点や改善が必要な点など

<p>視点 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が何ができるようになればよいのかが漠然としていたため、ゴールを明確にする必要がある。</li> <li>・できるようになったことはブラッシュアップし、さらに高めていくことができるようにする。</li> <li>・学習内容の見通しはあっても、ねらい（何ができるようになるか）の見通しがなかった。どのように児童に伝えるかが課題である。</li> <li>・学習内容を提示するためのホワイトボードの活用の仕方を見直したい。</li> <li>・メインの活動に比重が置けるように、導入段階を吟味したい。</li> </ul>
<p>視点 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何ができたらよしとするか、授業者間で共有する必要がある。児童の実態差がある中で、どのようにポイントを絞って課題を設定するのかを考える必要がある。</li> <li>・実態より少し高いところに目標を設定することが、どの題材でも細やかにできるとよい。目標の曖昧さが、飽きやマンネリ化につながっている児童もいた。</li> <li>・教科や指導場面によっては、手立てに工夫の余地がある。</li> <li>・実態をよく捉えた授業展開の仕方を模索していく。</li> </ul>
<p>視点 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りに使用するカードやシートなどのツールは、児童にとって意味のあるものになっていたか。</li> <li>・客観的に児童を評価する必要がある。</li> <li>・活動量を確保しながらの振り返りの設定に課題がある。</li> <li>・単元シートを活用した振り返りをしたが、授業者の記録に留まっていることがあり、児童にとって有用なツールとするための工夫が必要である。</li> <li>・個人内の成果が毎回同じだったときの評価の仕方はどのようにすればよいか、検討が必要である。</li> </ul>

#### 4 小学部のまとめ

学部研究を進めていく中で、3つの視点の捉え方に授業者の個人差があることが明らかになった。以下に、話題になった例を挙げる。

<p>視点 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しとは、1時間の学習の流れを示すことだけではない。単元などの学習のまとめりごとに、育成を目指す資質・能力を児童の姿で具体化することが必要である（目標と評価規準の明確化）。</li> <li>・見通しをもって学習に取り組むことは大切だが、既に見通しをもっていることには、見通しをもつための支援は必要か。課題を意識することにつながっているか。</li> <li>・毎時間の繰り返しの内容に、順序の提示は必要か。「分かって活動する」児童の動きを止めていないか。</li> <li>・授業者が提示したカードなどの文字やイラストが示す意味は、児童が理解できるものであるか。</li> </ul>
-----------------	---

<p>視点 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ編製の工夫などで、学習ペースや集団は実態に合っているように感じるが、設定した課題は、児童が各教科等における「見方・考え方」を働かせることができるものになっていたか。</li> <li>・学習指導要領の各教科のどの段階にいるのかをチェックして単元（題材）ごとに、「何ができるようになればよいか」について明確にして取り組むことが必要である。</li> <li>・各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等の目標達成を念頭に置き、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要である。</li> </ul>
<p>視点 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「振り返り」をどのように捉えるか。</li> <li>・毎時間の振り返りでは、その時間に取り組んだことの確認や感想の発表に留まってしまふことが多く、児童が何を学んだか、どのように取り組んだかの自覚には至っていない。</li> <li>・毎時間振り返りの場面を設定するのではなく、実態に応じて、単元のまとまりでの振り返りや、学びの確認テスト、記録、表情などで学習の充実度や達成度を見取っていくことも必要ではないか。</li> <li>・前時に学んだことを活用できる授業構成であると、児童自らが振り返りながら学びを進めていくことになる。</li> <li>・振り返りをするために、メインの活動の時間を削っているのでは、児童の学びの充実の視点から外れてしまう。</li> </ul>

2年次は、「学習の振り返り」を中心に考えながら授業づくりを進めてきたが、小学部では「振り返りの充実＝授業全体の充実」と捉えたい。振り返りの時間を多く設定したり、ツールを増やしたりすることを3つの視点に迫る授業づくりとするのではなく、目標や学習内容の整合性、活動量、学んだこと、できるようになったこと、満足感や達成感など、授業そのものの充実を図ることが授業づくりであることを、2年間の研究を通して改めて実感することができた。授業者自身が、自分たちの授業実践を振り返り、改善して次につなげる「よい授業」をつくっていくことが、児童の「よく分かる授業」につながっていくと考える。その共通認識の下に取り組んできたことから、3つの視点に基づいた授業改善により、児童の学びの充実を実現する授業づくりに迫ることができた。

本研究の課題を踏まえ、これまでの2年間の実践を大切にしながらも、授業者の考え方をよりよく更新して、児童の学びの充実に向けた取組を継続したい。



【表1 根拠のある学びシート（一部）】

	4月	5月	6月
ねらい	学校生活のきまり 友達づくり	健康・安全 学校行事への取組 (活力ある生活)	社会の仕組みと公共施設 健康・安全
国語	・書字の基本 ・学校生活に係る言葉や記号の意識・理解	・行委に関わる言葉の意識・理解 ・他者とやりとりする言葉の意識・理解	・社会生活に必要な言葉の意識・理解・活用 ・話し掛けへの注目と関わり ・話し方や聞き方のルールやマナー ・出来事や経験したことの表現
算数	・数の基礎 ・時間や時刻の意識・理解	・上下、前後、左右の理解 ・データの活用 (グラフの読み取り、数の多少、○×)	・金銭の扱い
音楽	・歌唱の基礎（立ち方、口の開け方） ・身近な歌（国歌、校歌）	・音楽遊び（身体表現） ・伝統踊り（鮭だ！ハナマガリ）	・音楽遊び（打楽器演奏）
体育	・きまりやルールの理解 ・集団行動	・友達と競い合う楽しさ ・走・跳の心地よさ	・友達と力を合わせた運動
図工	・安全な制作（道具の名称、使い方） ・色（名称、弁別、組み合わせ、配色）	・自己の思いの表現	・経験したことや学んだことの表現 ・いろいろな技法
道徳	他者の受容 友達の意識	生活のリズム	友達との関わり
特活	・1年間の目標設定（キャリアパスポート） ・組織づくり ・役割の理解	・友達との関わり	・友達との協力 ・人間関係の構築 ・レクの活動
自活	・集団への参加。生活リズムの基礎 ・他者とのやりとり ・コミュニケーションの基礎 ・健康の意識 ・体の使い方	・状況の変化への対応 ・季節に応じた生活習慣 ・自己の理解 ・他者の理解	・情緒の安定 ・日常生活に必要な基本動作 ・自己の理解 ・他者の理解
日生	・身辺処理（排せつ、歯磨き、手洗い、うがい、更衣） ・マナー ・清潔 ・衣服の調整 ・清掃 ・体力づくり ・感染症対策（手洗い、うがい、消毒、検温、マスク着用）	・学校生活のリズム ・時間・日にちの意識 ・挨拶 ・食事	
遊び	・遊びの基礎 ・教師との関わり「手をつなぐ」 ・安全意識「車が来たら止まる」	・友達の意識「貸して」「いいよ」「集まれ」 ・教師への依頼「お願い」 ・終わりの理解と納得	・いろいろな感覚の気付きと受容 ・他者との関わり ・操作
生単	・集団参加 ・共同作業	・目標設定と振り返り	・社会の仕組みと公共施設の利用 (交通安全、買い物) ・地域で生きる
行事	始業式 入学式 避難訓練 1年生をむかえる会	不審者対策訓練 運動会	むし歯予防月間 校外学習（交通安全指導含む） なかよし交流

#### IV 中学部

##### 1 今年度の実践

###### (1) 授業実践と「授業づくりシート」

3つの視点を盛り込んだ「授業づくりシート」を用いた授業づくりに継続して取り組み、3つの視点のうち、特に「学習の振り返り」を重点的に取り組むことを確認した。授業の略案となる「授業づくりシート【集団用】」は1年次に変更した様式を継続することにし、授業の振り返りに記入する「授業づくりシート【次の授業に向けて】」と「授業づくりシート【グループ用】」の2種類について内容の検討を行い、作業学習を中心に保健体育や音楽など全教科等で取り組み、検証した。


###### ア 「授業づくりシート【次の授業に向けて】」の様式の検討

「授業づくりシート【次の授業に向けて】」は、シートの内容を3つの視点に変更し、それぞれの視点についての手立ての有効性や改善点等を記入し、授業者間で共有することができるようにした。1年次と2年次の「授業づくりシート【次の授業に向けて】」の様式を示す。

##### 1年次

【次の授業に向けて】	視点1、視点2、視点3も 考えてみましょう。
1 流れについて	
2 手立て(教材教具、配置など)	
3 取り組みの様子	
4 その他	

##### 2年次



【次の授業に向けて】
1 視点1「学習の見通し」について
2 視点2「学習課題を解決するための学習活動」について
3 視点3「学習の振り返り」について
4 その他

イ 「授業づくりシート【グループ用】」の検討

授業後に生徒の学習の様子を記入し、授業者間で回覧する「授業づくりシート【グループ用】」を、授業者が生徒の学習の様子を共有するものとして継続して活用し、観点別学習状況評価のもととなる「評価シート」として内容を検討した。

生徒の学習の様子について、目標に対する生徒の学習達成状況を観点別に記入し、文頭に「◎…できた」「○…支援あり」「△…改善が必要」をつけて記述できるように変更した。また、生徒の個別の指導計画の目標も意識しながら生徒の学習の様子を記入することができるように、それぞれの生徒の目標の欄に個別の指導計画の目標を記入することとした。ただし、教科等によっては、個別の指導計画の目標より单元ごとの目標を記入した方が生徒の学習の様子を評価しやすいということから、教科等によっては单元ごとの生徒の目標を記入することとした。

活用していく中で生徒の様子をより具体的に記述するには3観点に分けずに記述する方が活用しやすいため、「評価シート」はそれぞれの生徒の学習の様子について、3観点に分けずに、◎、○、△を文頭につけて記述する形に変更した。「評価シート」の様式を示す。

中学部 【評価シート】				
氏名				
目標				
取り組みの様子				
◎：できた ○：支援あり △：改善必要	なんでも	なんでも	なんでも	なんでも

(2) 全体授業研究会

作業学習の製品班で「DORA販売会に向けて作業製品を作ろう」の単元で研究授業を行い、視点ごとに見られた生徒の姿、「授業づくりシート」について協議した。また、岩手県特別支援教育研究大会宮古地区大会での授業提案にあたり、岩手県教育委員会事務局学校教育室 鎌田和茂主任指導主事より、授業づくりについての助言をいただきながら進めた。

ア 成果

(ア) 3つの視点について

視点 1	<ul style="list-style-type: none"><li>・ホワイトボードが見やすく、生徒が自分自身の作業内容をよく理解して取り組んでいた。</li><li>・目標を自己決定する機会があることで、責任感や達成感を感じることができ、生徒の意欲につながる。</li><li>・長期目標と短期目標が設定されており、生徒が見通しをもって取り組んでいる。</li></ul>
視点 2	<ul style="list-style-type: none"><li>・目標数という具体的な目標をホワイトボードに記入することで、目標を意識し、それに向かって取り組むことができる。</li><li>・生徒の実態、課題に応じた活動内容になっていた。</li><li>・数の概念の理解が難しい生徒に対する補助具など、生徒が主体的に進められるように教具が工夫されていた。</li></ul>
視点 3	<ul style="list-style-type: none"><li>・目標の自己決定が「責任をもつ」ことにつながっている。達成時に喜びを感じることができる。</li><li>・ミーティングで使用したホワイトボードをそのまま使うことで、目標に対する比較ができて良い。仲間と共有できるのが良い。</li></ul>

(イ) 「授業づくりシート」について

- ・生徒の学習の様子や達成度等を授業者が共通理解するためのツールとして活用されていて良い。
- ・「◎…できた」「○…支援ありでできた」「△…改善が必要」の表記が分かりやすい。

イ 課題

(ア) 3つの視点について

視点 1	<ul style="list-style-type: none"><li>・製品の合否が分かりにくい。</li><li>・授業者によって合否の基準が異なる。</li></ul>
視点 2	<ul style="list-style-type: none"><li>・前半後半で作業内容が変わっている。一つの作業に長い時間取り組むという姿勢があっても良いのではないか。</li></ul>

(イ) 「授業づくりシート」について

- ・「評価シート」の△の記載については、改善のための手立ての記載があるとより良い。
- ・「評価シート」で◎がついている生徒が多く、次の目標設定を検討することも必要か。

以上の成果と課題を学部研究会において共有し、今後の方向性を確認し授業づくりを行った。成果・課題として挙げられた点に対し、検討した内容は次のとおりである。

ウ 検討内容

(ア) 3つの視点について

視点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「製品の合否が分かりにくい」「授業者によって合否の基準が異なる」について、材料の量を明確に設定し、生徒が計量を行う作業を取り入れる。</li> <li>・見本を提示することで、製品の質の目安が分かりやすく、また、授業者間で共通理解できるようにする。</li> </ul>
視点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「前半後半で作業内容が変わっている。一つの作業に長い時間取り組むという姿勢があってもよいのではないか。」について、生徒によっては長い時間継続して同じ作業に取り組む力を身に付けることも必要であるが、継続して同じ作業に取り組むことが難しい生徒では、作業を変えながらも長い時間取り組むことができるということも必要である。</li> <li>・紙作り班、製品班で作業内容も異なっているため、生徒の実態に応じて必要な力を身に付けるためには、どちらの班が適切かという視点でも班編制を行い、3年間を通じて様々な力がつくようにしていく。</li> </ul>
視点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードを活用して、生徒が目標を決める活動と振り返りの活動は今後も継続して取り組んでいく。</li> </ul>

(イ) 「授業づくりシート」について

- ・「評価シート」に「△」を記載する際には、次はどういった手立てがあると目標を達成することができるのか、次はどういった目標設定をすることがその生徒に必要なかを記入して授業者間で回覧を行う。支援の手立てや次の目標の記入は、その生徒を主に担当している授業者が主体で記入していくが、2回目の回覧を行う際には、その他の授業者も考え得る手立てや次の目標について記入する。
- ・「評価シート」で「◎」がついた生徒については、新たに材料の計量作業や、次の単元となる恵風祭での販売へ向けた新たな作業内容を取り入れることによって、新しい目標を設定しながら取り組むことができるようにしていく。

(3) 全体授業研究会後の実践

次の単元の「恵風祭に向けて作業製品を作ろう」で実践し、検討した内容は以下のとおりである。

ア 3つの視点について

視点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が目標を自己決定することで、生徒が見通しをもち、自分の作業に対して責任をもって取り組むことができているので、今後も生徒が目標を自己決定する機会の設定や支援を継続的に行う。</li> </ul>
視点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙づくり班は振り返りシートを活用して作業量や質について個別に授業者と確認をし、授業者がシートにコメントを記入することで振り返りをしている。一方、製品班では振り返りシートは活用していないが、生徒全員でホワイトボードを見ながら、個人や全体の目標数に対しての成果の確認や、丁寧さや態度面といった作業の質的な面にも触れて振り返りをしている。それぞれの班での振り返り方法は異なるが、どちらも生徒の実態に合っており、生徒は成果を実感したり、振り返りを次時の目標設定に生かしたりすることができている。</li> </ul>

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「製品が何個できた」といったような作業の量の評価から、「仕上がりを考えて丁寧に作業できた。集中して作業できた。」といった作業の質の評価に変換するという視点を持ちながら、学年の段階や生徒の実態に合わせて振り返りを行っている。</li> </ul> |
|--|

イ 「授業づくりシート」の活用について

- ・「授業づくりシート【次の授業に向けて】」を活用し、3つの視点に基づいた授業の方向性や支援の手立ての改善について共有することができた。改善点として上げられた意見について、シートをベースに、必要に応じて話し合うという形で活用していくことを確認した。
- ・「評価シート」の記入、授業者間での共有方法について、それぞれで共有ファイルに打ち込む方法も検討したが、システム上、一部の職員が使用できないことがあった。また、シートに直接記入することで、授業者が生徒の学びの姿や支援の手立てを客観的に振り返る機会となったという意見があり、「評価シート」を紙媒体で活用していく方向になった。紙媒体での活用については、教科等でファイルを準備し、ファイルにこれまでの「授業づくりシート」を蓄積し活用していくことで、授業者間で共有しやすく、これまでの生徒の学習について振り返りながら授業づくりができるのではないかという意見があったため、今後、教科や学年ごとの「授業づくりシート・評価シート用ファイル」を使用していく。

(4) 成果と課題

ア 成果

(ア) 学習の振り返りについて

学習の振り返りについては、作業学習の2つの班で情報共有し、生徒の実態や段階に合わせて振り返りの方法を検討し実施していくことの重要性を確認することができた。

(イ) 「授業づくりシート」について

- ・「授業づくりシート」を活用し、いわでの授業づくり3つの視点に沿って授業づくりを行い、授業者全員で授業の方向性や支援の手立ての改善について共有しながら、日々の授業づくりを行うことができた。
- ・「授業づくりシート」に単元の目標、「評価シート」に個別の指導計画の目標を入れることで、長期的な目標を意識しながら、一つの單元における個々の生徒の目標を考え、授業をしたり評価したりすることができた。
- ・「評価シート」に記入された生徒の学習の様子を、個別の指導計画の評価をつける際に参考にすることができた。
- ・「評価シート」で学習の様子を◎、○、△を文頭に付けて記述することで、生徒の目標の達成状況を授業者間で共有しやすくなった。
- ・△が付いた部分では、次の学習での支援の手立てを変更したり、◎が付いた部分では、より高い目標設定や学習内容の設定を検討したりするきっかけになった。

(ウ) 3つの視点に基づいた授業改善

作業学習	
視点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売会といった長期的な目標の提示を行ったり、生徒が目標を自己決定する機会を設定したりすることで、見通しをもって意欲的に作業学習に取り組むことができた。</li> </ul>
視点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態や課題に応じた作業内容を設定し、一人で取り組むことができるような補助具を活用することで、生徒が自ら進んで作業に取り組むことができた。</li> <li>・「お客様に喜んでもらえるように丁寧に製品を作ろう」という目標を意識して取り組むことができるように、どういった仕上がりの製品を作ることが「丁寧」であるかを、見本やチェックポイントとして生徒と確認することで、生徒自身が丁寧さについて考え、仕上がりを意識して製品作りに取り組んだり、作業工程の取り組み方を工夫したりすることができた。</li> <li>・これまで取り組んでいた課題を解決した生徒には、作業内容を変更したり、新しい作業内容を取り入れたりすることで、生徒がステップアップした課題に取り組んだり、新たな学びをしながら作業に取り組んだりすることができた。</li> </ul>
視点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習の製品班、紙作り班のそれぞれの班で、生徒の実態や段階に合わせて、シートやホワイトボードを活用して自己決定した目標に対し、作業量や作業の質について振り返りを行うことで、生徒が達成感を感じて喜んだり、自分の課題を見つけ、次の作業学習の目標設定や取り組みに活かしたりすることができた。</li> </ul>

イ 課題

- ・「評価シート」を観点別評価に結び付くものとして個別の指導計画に活用できるものにした。
- ・各教科等を合わせた指導における目標設定について検討していく必要がある。

## V 高等部

### 1 今年度の実践

#### (1) 「作業日誌」「実習日誌」の検討

いわての授業づくり3つの視点のうち、今年度の研究の重点である「学習の振り返り」を充実させるために、「授業づくりシート」を用いた授業実践と併せて、日頃の作業学習で用いている「作業日誌」及び前期・後期に行われる校内・現場実習で用いている「実習日誌」の二つの様式の見直しを行うこととした。

日誌の検討にあたり、作業学習をとおして目指す生徒の姿を授業者間で共有するため、本校のキャリア教育目標の内容を確認した。その結果、キャリア教育目標の中で「高等部段階における育てたい力」に示されている「場や状況に応じた適切な言葉遣い、服装、身だしなみを心掛け、TPOに応じた言動ができる。」(人間関係能力)、「実習等の活動を振り返り、できたことやできなかったことに気づき、より客観的・肯定的に自己評価し今後の生活に生かす。」(意思決定能力)など各項目の内容を、日誌の自己反省の内容にリンクさせることとした。

また、これまで用いていた作業日誌は、班ごとに様式の違いはあるものの自己反省の内容は概ね共通していたが、見直し後は統一項目を設けず、各班の活動や生徒の実態に応じて内容を見直すこととした。自立活動として作業に参加している重複学級の生徒についても、生徒自身による振り返りの意味合いだけではなく、担当する授業者間の情報共有の手段としても活用できるよう、一部の生徒を対象に新たに様式の作成と活用を行った。

木工班作業日誌 検討前

検討後

月 日 ( ) 天気 ( )			
服装チェック 2人でチェックして ○ をつける			
帽子		ベルト・ズボン	
上着・Tシャツ		靴	
作業内容			
作業内容			
<自己反省> 自分の作業について ○ △で評価をしよう			
わからないことや次の作業内容を自分から質問・報告することができたか。		製品を傷つけないように仕上げるなど丁寧に作業することができたか。	
時間いっぱい集中して作業に取り組むことができたか。		準備・片付け・掃除をみんなで協力してできたか。	
しっかり指示を聞き、仲間と協力しながら作業に取り組むことができたか。		怪我なく、安全に作業をすることができたか。	
良かった点・反省点			
先生から			



月 日 ( ) 天気 ( )			
服装チェック 2人でチェックして ○ をつける			
帽子		ベルト・ズボン	
上着・Tシャツ		靴	
作業内容・目標			
<作業内容>			
<目標>			
<自己反省> 自分の作業について ○ △で評価をしよう			
わからないことや次の作業内容を自分から質問・報告をすることができたか。		製品を傷つけないように仕上げるなど丁寧に作業することができたか。	
時間いっぱい集中して作業に取り組むことができたか。		準備・片付け・掃除をみんなで協力してできたか。	
しっかり指示を聞き、仲間と協力しながら作業に取り組むことができたか。		怪我なく、安全に作業をすることができたか。	
<良かった点・反省点>			
<次回の目標>			
先生から			



陶芸班作業日誌 検討前

月 日 ( ) 天気 ( )

**服装チェック** 2人でチェックして ○ をつける

上着・Tシャツ (フモガスボンに入っていますか?)		ベルト・ズボン	
サンダル		つめ	

**作業内容**

<自己反省> 自分の作業について ○ △で評価をしよう

わからないことや次の作業内容を自分から質問・報告することができたか。	製品を傷つけないように仕上げるなど丁寧に作業することができたか。
時間いっぱい集中して作業に取り組むことができたか。	準備・片付け・掃除をみんなで協力してできたか。
しっかり指示を聞きながら作業に取り組むことができたか。	怪我なく、安全に作業をすることができたか。

良かった点・反省点

次回の目標

先生から

検討後

月 日 ( ) 天気 ( )

**服装チェック** 2人でチェックして ○ をつける

上着・Tシャツ (フモガスボンに入っていますか?)		ベルト・ズボン	
サンダル		つめ	

**作業内容**

<自己反省> 自分の作業について ○ △で評価をしよう

今日の作業に満足感、達成感はあるか。	製品を傷つけないように仕上げるなど丁寧に作業することができたか。
質問・報告を言葉遣いに気をつけ、自分からすることができたか。	準備・片付け・掃除を協力してできたか。
指示された通りの作業を心がけることができたか。	怪我なく、安全に作業をすることができたか。

良かった点・反省点

次回の目標

先生から

手芸班作業日誌 検討前

月 日 ( ) 天気 ( )

**服装チェック** 2人でチェックして ○ をつける

Tシャツ		靴	
------	--	---	--

**作業内容**

<自己反省> 自分の作業について ○ △で評価をしよう

わからないことや次の作業内容を自分から質問・報告することができたか。	製品を傷つけないように仕上げるなど丁寧に作業することができたか。
時間いっぱい集中して作業に取り組むことができたか。	準備・片付けをみんなで協力してできたか。
しっかり指示を聞き、仲間と協力しながら作業に取り組むことができたか。	怪我なく、安全に作業をすることができたか。

<今日の良かった点・反省点>

<次回の目標>

<先生から>

検討後

月 日 ( ) 作業場所【 】

○作業内容

○今日の目標

<振り返り>今日の作業について評価をしよう。

1: 全然できなかった 2: できないところがあった  
3: できたところもできないところも同じくらいあった 4: まあまあできた 5: できた

I	自分の作業内容が分かり、仲間と協力しながら作業を進めることができた。	
II	言葉遣いや態度に気をつけて、あいさつ・報告・連絡・相談ができた。	
III	作業の計画を立て、時間を守って取り組むことができた。	
IV	自分で選んだり、自分の考えを相手に伝えたりすることができた。	
V	生活態度と身だしなみに気をつけることができた。	
VI	今日の目標	

○今日の感想、次回の作業

今日のできたこと よかったこと	
次回の作業内容	
次回の目標	

農耕班作業日誌 検討前

月 日 ( ) 天気 ( ) 気温 °C

**服装・持ち物チェック** 2人でチェックして ○ をつける

帽子		ベルト・ズボン	
上着・Tシャツ		防災頭巾・筆記用具	

**作業内容**

作業内容

**<自己反省>** 自分の作業について ○ △で評価をしよう

挨拶・返事ができたか。		指示を聞いて丁寧に取り組むことができたか。	
わからないことを自分から質問・報告することができたか。		準備・片付け・掃除をみんなで協力してできたか。	
最後まで集中して作業に取り組むことができたか。		怪我なく、安全に作業をすることができたか。	

良かった点・反省点

先生から

検討後

月 日 ( ) 天気 ( ) 気温 °C

**<服装・持ち物チェック>** 2人でチェックして ○ をつける

上着	Tシャツ	ベルト	ズボン
帽子	筆記用具	水筒	ぼうしぼうし 防災頭巾

**<メモ>**

メモ

**<作業内容>**

作業内容

自分から挨拶・返事ができたか。		指示通りに作業ができたか。	
自分から質問・報告ができたか。		準備・片付けを協力してできたか。	
最後まで集中していたか。		安全に作業ができたか。	

**<反省>** 今日の作業について ○ △で、振り返ろう。

○うまくできたこと。

△失敗したこと。次に、頑張りたいこと。

先生から



実習日誌は、学部での検討前に、生徒の実態や実習形態によって数種類から選択して使用できるように様式の見直しが行われていたため、6月の前期実習の後、実際の生徒の取り組みの様子について実態を共有し検討を行った。検討の結果、内容が重複している項目や目指す姿とは関係の薄い項目を削除したり、項目の文言を生徒が理解しやすいように変更したりと、様式の更なる見直しを行った。実習後の振り返りで用いる反省のページは、項目を大きく一新したほか、イラスト入りの簡潔な文章で生徒が理解しやすい簡素版も作成し、生徒が自分で振り返ることができるように見直しを図った。新しい様式の実習日誌は、10月の後期実習で使用した後、11月の研究日で生徒の取り組みの様子を共有し、再度項目や文言の見直しを行った。

実習日誌（現場実習／一般就労）検討前

**【実習先で記入】**

月 日 ( ) 天気 今日の体調 (良い・普通・悪い)

仕事内容

上手くできたこと (〇をつける)  
挨拶・返事・報告・連絡・相談・集中力・体力・安全・正確・速度・対人関係

上手くできた理由

感想と明日の目標

実習先から (記入をお願いします)

**【家で記入】**

起床 : 就寝 : (睡眠時間 時間 分)

「新聞、テレビ等で調べよう。」  
世の中ニュース

感想

家庭から



検討後

月 日 ( ) 天気 今日の体調 (良い・普通・悪い)

昨日の就寝時間 : 今日の起床時間 : (睡眠時間 時間 分)

・家庭生活について できた・・・〇 できなかった・・・×

洗顔	朝食	歯磨き	準備	入浴
----	----	-----	----	----

**【今日の作業について】**

仕事内容

上手くできたこと (挨拶・返事・報告・連絡・相談、仕事内容など)

今日の反省 (良かったこと、課題と感じたこと)

明日の目標 (頑張りたいこと、直したいこと)

実習先から (作業や生活の様子を可能な範囲でご記入願います。)

**【保護者記入】**

帰宅してからの様子などを可能な範囲でご記入願います。

実習日誌 反省ページ（現場実習）検討前

★実習日誌を読み返してまとめる★  
・どんな仕事（作業）をしましたか？

・実習先からほめられたこと、うまくいった作業は何ですか？

・実習中、うまくいった作業は何ですか？また、うまくいった理由は何ですか？

・注意を受けたことは何ですか？（今後の課題）

・注意を受けたことを改善するために、考えられることは何ですか？

・実習を終えての感想を書こう。

★個人目標の反省をする。(別紙)  
★これからの作業の目標を考える。(別紙)  
★礼状を書く。(別紙)

(担任から)



検討後

自己評価をもとにくわしく書き出してみよう！  
【日常生活・社会生活に関すること】

1. 通勤・通所はどんな方法だったか？〇をしよう！  
・公共交通機関 (三鉄 県北バス) ・事業所の送迎 ・保護者送迎

2. 通勤・通所でトラブルや不快に思ったことがあったら具体的に書いてみましょう。

3. 起床時間 就寝時間を書き出してみよう。

出勤・通所日の起床時間	出勤・通所日の就寝時間	休日の起床時間	休日の就寝時間
:	:	:	:

4. 休日にリフレッシュできる方法はありますか？

5. 生活面で課題と感じたことはありますか？

【医療に関すること】

1. どんな作業を行いましたか？主なものを書いてみよう！

2. その中で自分が一番うまくできたと思った作業は何ですか？

3. アドバイスや注意を受けたことで印象に残ったことはありますか？

4. 作業に関して課題と感じたことは何ですか？

5. 今回の実習先は自分と合っていると感じましたか？〇をつけよう。  
・合っている ・合っていない ・どちらともいえない

6. そう思った理由を書いてみましょう！

★実習日誌を読み返してまとめる  
★個人目標の反省をする。(別紙)  
★これからの作業の目標を考える。(別紙)  
★礼状を書く。(別紙)

**実習の振り返りをする（全部終わったら担任の先生に提出する）**  
**★自己評価する★ 当てはまるところに○を書きましょう！**  
**【日常生活・社会生活に関すること】**

項目	選択肢	
毎日休まず通うことができましたか 	できた	できなかった
早寝・早起きことができましたか 	できた	できなかった
ごはんをしっかり食べましたか 	できた	できなかった
入浴・洗顔・歯磨きはできましたか 	できた	できなかった

**【就労に関すること（作業能力・作業態度）】**

項目	選択肢	
挨拶・退事はできましたか 	できた	できなかった

(2) 「授業づくりシート」を活用した授業改善

高等部では昨年度の研究の取組から継続して、音楽などの集団活動で「授業づくりシート」が使用されていたが、作業学習では使用されていなかった。今年度は、各班の実態に合わせて様式などを適宜変えながら、改めて「授業づくりシート」を活用した授業実践に取り組み、実践の様子を踏まえて今後の各教科や作業学習での活用方法を検討していくこととした。

(3) 全体授業研究会

9月に行われた第2回全体研究会では、全ての職員を各作業班に振り分け、班ごとに3つの視点に基づいた協議を行い、各班で学習における成果と課題を確認した。協議の内容は以下のとおりである。

視点 1	木工班	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもって集中して取り組むことができている。</li> <li>安全面の教育指導が徹底している。</li> <li>班目標が明確に提示されていて、見やすく分かりやすい。読み上げることで意識して活動に入ることができる。</li> </ul>
	陶芸班	<ul style="list-style-type: none"> <li>日誌を用いて、今日の目標を確認できている。</li> </ul>
	手芸班	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人が自分の作業内容を把握し、集中して取り組んでいる。</li> <li>ホワイトボードに目標や作業内容を記入して黒板に貼ることで、確認ができる。</li> </ul>
	農耕班	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返りながら、収穫のポイントについて積極的に発言し理解を深めていた。</li> <li>難しい言葉（「脱きょう」など）の意味を理解して質問に答えている。</li> </ul>

視点 2	木工班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で声を掛け合って作業分担したり、安全に機械を扱ったりすることができている。</li> <li>・生徒が自分で考えて作業に取り組んでいた。</li> <li>・部品の貼り合わせ方に悩む生徒への視覚的支援が必要。</li> <li>・作業スペースの確保や作業場所の設定など、場の工夫があるとよい。</li> </ul>
	陶芸班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の活動に取り組みやすい環境が整っている。</li> <li>・責任をもって取り組むような作業内容が設定されている。</li> </ul>
	手芸班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで準備をし、黙々と作業に取り組んでいた。</li> <li>・タブレット型端末で動画を確認しながら、作業を進めることができていた。「先生がいなくてもできる。」という自信や自立につながる。</li> </ul>
	農耕班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に休んでいた生徒に他の生徒が手本を示すなど、生徒同士の関わりの中で学びを得られていた。</li> <li>・授業者からの発問を理解し、考え、適切な言葉で答えていた。</li> </ul>
視点 3	木工班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌で目標設定と振り返りができるようになっている。</li> <li>・自分がどのように作業できたかを振り返る明確なものが少ない。</li> <li>・まめに販売ブースをチェックするなど、「売れた」という振り返りも意欲向上につながるのではないかな。</li> </ul>
	陶芸班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをホワイトマグネットに記入し、黒板に貼っておくことで次回意識して頑張ることが分かるようになっている。</li> </ul>
	手芸班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌を5段階評価にしたことで生徒が書きやすい。</li> <li>・日誌の振り返りを見ることで、前日と違う職員が入っても継続して指導ができる。</li> <li>・ホワイトボードと日誌、目標設定や成果の記入が重複してしまう。</li> </ul>
	農耕班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と一対一での振り返りにより、生徒それぞれの気付きや学びを授業者が評価できている。</li> <li>・日誌のメモ欄や反省の記入が難しい生徒への支援が必要。</li> </ul>

## 2 成果と課題

### (1) 成果

#### ア 日誌の様式の見直しによる学習の振り返りの充実

作業日誌の検討においては、従来の日誌での自己反省の項目等の内容を一新し、各班の活動や生徒の実態に合わせた項目に改めたことで、生徒自身が活動をより具体的に振り返ることができるようになった。また日誌の様式を見直したことで、学習における振り返りに重点を置き、日誌をもとにさらに振り返りの内容を深めたり、次時の活動目標の設定に生かしたりと、様々な授業改善がみられた。自立活動として作業学習に取り組む重複学級の生徒については、同様に振り返りの活動を充実させることができた生徒がいたほか、自分での振り返りが難しい生徒においても日誌を作業内容や取り組みの様子の記録として活用し、授業者間での情報共有や活動の調整に役立てることができた。

実習日誌の検討においては、実際の活用の様子をもとに改善を図ったほか、実態に応じて選択できるように数種類の様式を作成したことで、これまで自分で振り返りを行うことが難しかった生徒も自分の作業について適切に振り返ることができた。

#### イ 「授業づくりシート」による授業改善と活用場面の明確化

「授業づくりシート」を活用した授業実践を行うことで、作業における目標や生徒への支援を職員間で改めて共有したり、活動内容や分担等を見直したりすることができた。また、全体授業研究会では、3つの視点に基づき、作業学習において継続していく点と改善点を班ごとに確認し、さらなる授業改善につなげることができた。

また、実際に作業学習で「授業づくりシート」を活用した実践を行い、高等部の作業学習では短時間で目標や活動内容が大きく変化するものではないことから前期・後期などの長期で「授業づくりシート」を作成することが妥当ではないか、という意見にまとまった。また、日誌の様式を見直し、作業における目標や課題など必要な要素を確認できるようになったことから、「授業づくりシート」に代わるツールとして作業日誌を活用していくことも可能である。その他の教科等の学習では、単元における活動の流れや授業者間の情報共有を図るツールとして、必要に応じて適宜活用していくことを確認した。

### (2) 課題

#### ア 作業日誌・実習日誌の内容の精査と検証

様式を見直したことで、現段階では有効に活用されているが、今年度の日誌の様式は今年度の生徒の実態に合わせて作成されたものであるため、どの生徒にも有効な様式であるわけではない。今後も長いスパンで日誌の有効性を検証し、検討を重ねていくことが必要と考えられる。

#### イ 作業学習以外の場面での般化

学校でできたことが家庭や社会に出たときにできない生徒が多い。学校の作業学習の中では、振り返りが定着しているが、社会に出た時に自分でできるような方法を検討していく必要がある。

#### ウ 柔軟性のある振り返りの方法の設定

日誌での振り返りが必ずしも生徒の達成感につながるわけではなく、表やグラフなどでより視覚的に成果を確認したり、授業者に報告し認めてもらったりすることで達成感や次の作業への期待感につながる生徒もいる。「日誌」という形での振り返りの方法にとらわれず、生徒の実態に合わせた柔軟性のある振り返りの方法を行う必要がある。

## VI 研究のまとめ

### 1 成果

昨年度から2年間にわたり、学部ごとに、「いわての授業づくり3つの視点」に基づいた授業改善に取り組み、児童生徒の学びの充実を実現する授業づくりについて深めることができた。

視点1：児童生徒が自分で目標を考えて取り組むことができた。児童生徒と教師がねらいを共有し、目標に向かって取り組んだ。

視点2：児童生徒の実態に合わせた課題の設定や学習グループを設定することで、それぞれが課題を解決しながら取り組んだ。

視点3：それぞれの発達段階に応じた振り返り方法で、児童生徒は、自ら振り返り、「何ができるようになったか」を考え、次の目標を自己決定することができた。

授業や単元のまとまりで、視点1、視点2、視点3を繰り返し、授業づくりをすることで、児童生徒の学びの充実につながった。

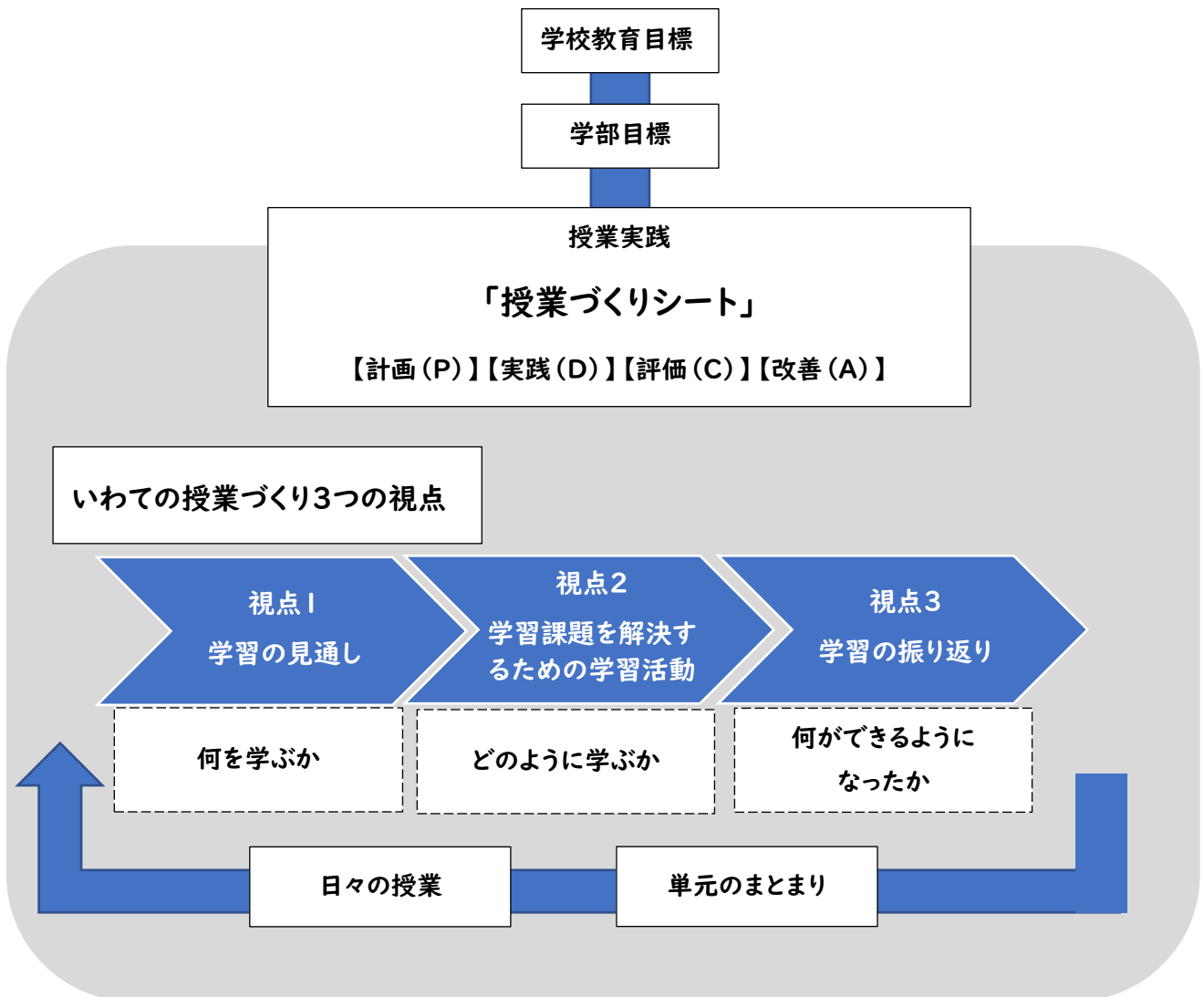
#### ・「授業づくりシート」について

3つの視点に基づき、各学部の実態に合わせて様式を検討し、活用した。授業の計画、授業改善、学習評価を共有するツールとして活用することができた。

### 2 課題

目標を設定し、「何ができるようになったか」を評価することはできてきたが、育成を目指す資質・能力を具体化し、目標と評価規準を明確にするまでには至らなかった。今後は、評価規準を明確にし、さらに個別の指導計画の作成に生かしていくことが課題である。

【研究構想図】





新学習指導要領が示した方向性として、「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラムマネジメント」の確立とその改善・充実が必要であることが示されました。これらの実現に向けてポイントとなるキーワードとして「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という三つが挙げられています。この三つを我々教師側からの視点としてどのように見ていくかということが大切ですし、その際にどの順番で考えてみるかということもポイントの一つではないかと思えます。

このことを踏まえて私なりに考えてみますと、ひとつめは「何を学ぶか」です。学びの必要性、学びの価値をしっかりと持っていることが大切になってくると思えます。二つ目は「どのように学ぶか」です。学び方や効果的な学習方法の選択を必要に応じて提示できるかが大切だと思えます。三つめが「何ができるようになったか」となります。学習到達度をしっかりと評価できる視点や基準を持っていること、合わせてそれを何につなげていくか、何につながっていくかということの見通しを示すことが大切になってくると思えます。

学校には大きな目標として学校教育目標があり、そこから各学部の学部目標、さらには学年、学級目標、個別の目標と細分化されていきます。学校の目指す一つの目標に向かってそれぞれが別々の方向性で進んでも、大きな推進力は生まれません。それぞれのステージごとに設定されている目標をクリアしながら次のステージにつなげていく、このプロセスが必要になってきます。

今回の研究はその中でも、各学部で日々実践されている授業に焦点を当てる研究でした。大きな推進力につなげていくためには洗練された授業の積み重ねが大切であり、授業を行うわれわれ教師の「児童生徒を見る目」、「題材を選定する目」、「学習評価の目」の経験値を上げていくことが必要です。

今回の研究で取り組んだ「授業づくりシート」の作成とそれを基にした実践は、まさにその経験値を上げることに一定の成果を出したのではないかと考えています。各学部で磨いてきた授業実践力を踏まえ、それぞれの学部での「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の連携が明確になっていけば、学校目標の実現に向けて大きな指標を示すことができるようになるとも考えます。

我々教師も常に学び続けていく存在でなくてはなりません。普遍なことを土台としながらもその時代に合った視点や価値観、指導方法の研究、スキルの向上など柔軟性をもって対応していく必要もあります。教職員が同じベクトルの中で教育を積み重ね、一貫性のある指導を行っていくためにも研究を柱とする方向性の示し方は学校教育の現場において重要な位置づけであると認識しています。

今回の本校の研究が他校における実践研究の参考として、少しでも役に立てるのであれば幸いです。今後ともご意見やご指導を賜りながら精進を重ねて参りたいと思えますので、よろしく申し上げます。